

Flow Analysis XI へ参加して ～麦わらぼうしと折鶴 in マヨルカ島～

横浜国立大学大学院 庄司 貴

1. はじめに

2009年9月14日から18日にスペインのマヨルカ島ポレンシアにて Flow analysis XI が開催されました。「学生の報告記を書いてみないか」と酒井先生から宿題が出されたのは、学会三日目に行われたエクスカーション後のディナー時。あるテーブルにいた4名の学生の中で私が執筆を担当することになりました。なお、私は今回が初めての国際学会への参加、かつ、初めての海外渡航。ネタ話には不自由しない——例えば1年の殆どが晴れと聞いていたマヨルカ島では大雨に見舞われました——ので、学会報告というより海外珍道中記としてご覧頂ければ幸いです。

2. 出国からマヨルカ島へ

私たち横国大のグループは学生3名。その内私を含めた2名が海外未経験というチーム手探り。安い航空券を求めた結果、シンガポール・スイス経由でマヨルカへと到着するルートを取ったため、素人目にも苦勞するのが目に見える旅路でマヨルカ島入りしました。総飛行時間は約22時間、乗り継ぎを含めた時間は考えたくありません。多少のトラブル——スイスでの入国審査で何故か目的をしつこく聞かれたことや、手荷物検査で日本から持ち込んだガムの包み紙がひっかかったこと、空港で危うくカメラを没収されそうになったことなど——はあったものの、無事マヨルカ島に着き、酒井先生らと空港ロビーで合流出来た時はほっとしました。この後、ホテルまでバスで一直線だったのですが、スピード感溢れるマヨルカ島の道路事情に冷や汗をかくことになるとは思いませんでした。



写真 会場兼宿泊ホテル Pollentia Club Resort.
会場の前には地中海が広がっています。

3. 学会参加

ホテルに到着後、掲示されているプログラムを確認すると自分のポスター発表が初日に設定されており、夜は戦々恐々としつつ学会初日の朝を迎えることとなります。当日は実行委員である Balearic Islands 大学の学生さん達が受付作業を行っていました。英語に不慣れな私に対しても親切に対応してくれました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、前日の夜はびくびくしていた学会ですが、始めてみれば全て「英語」で行われることを除けば、日本で行われる学会と大きな違いはないように思えました。当たり前と言えば当たり前なのでしょう。強いて挙げるなら Flow Analysis は日本のそれと違い堅苦しい雰囲気は薄かったように思えます。勿論、和やかな雰囲気とは裏腹に、レクチャーでは非常に活発な質疑応答が繰り広げられていたのを覚えています。

「英語で行われる」という理由で国際学会への参加を躊躇う理由になる学生は多いと思います。かくいう私も適切に英語を使えるわけではありません。しかしながら、ポスター発表に関して言えば意外となんとかなる、というのが正直な感想です。事前の準備は必要ですが、身振り手振りや事前準備のおかげで日常会話よりも楽だったくらいです。当初は「困ったら筆談すれば良いかな」くらいに思っていたのですが、筆談の機会は全くありませんでした。かえって「日常会話」がくせものだったのですが、それは次に書こうと思います。

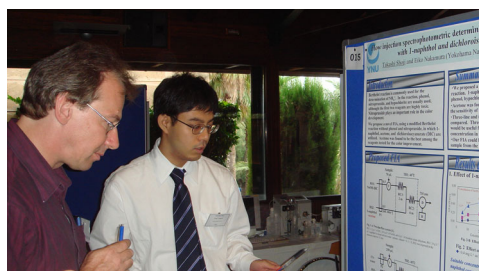


写真 Dr. Olaf Elsholz 氏 (写真左) と筆者 (同右)。

4. 異文化コミュニケーション

初日の夜にウェルカムパーティーが行われ、その時日本人学生のみで固まっていた私達に対して、手嶋先生が「異文化コミュニケーションをきなさい」とおっしゃられました。この時はウェ이터さんと写真を撮る程度でしたが、学会2日目以降は、様々な国の方々と研究以外の話題でも話す機会が得られました。3日目のエクスカーションでは、

その道中 Balearic Islands 大学の学生らと日本のアニメ文化について会話に花を咲かせました。けれども、これが出来なくて悔しい思いをしたのですが、中々言いたいことに合う表現が見つけられなかったのです。振り返ってみれば「会話」になっていたかは怪しいところ…話は変わってこのエクサクションですが、お陰でマヨルカ島を楽しむことが出来ました。巨大な鍾乳洞やサグラダ・ファミリアで有名なガウディの作品が大聖堂の中央に位置する大聖堂、大聖堂を囲む市街地、この大聖堂を遠くに見下ろすベルベル城と、マヨルカ島観光を堪能いたしました。余談ですが大聖堂では私達がフラフラと歩いていると、前の方から Balearic Islands 大学の学生達に「こっちだよ」と声をかけられ、更に自分達の方へ引っ張ってくれました。けれども実際は2グループに分かれており、私達は彼らとは別グループで行動していたのでそれを説明してようやく開放されました。それほど私達はうっかり集団、もしくは面倒を見てあげなきゃいけない人達に思われていたのでしょうか？



写真 カテドラル（大聖堂）を望む。
中にはガウディの作品もあります。



写真 ベルベル城からの眺め（パルマ市内方面）
ベルベルとは「見晴らしの良い」の意味だそうです。

5. 麦わらぼうしと折鶴を手に

初めての国際学会どころか初めての海外渡航となった今回、日本を立つ前はどんなトラブルに見舞われるのか、学

会ではきちんと説明できるだろうか、食事は口に合うのかと不安だけでしたが、日本の先生方や海外の研究者、私と同じ学生さんたちと、沢山の方々に支えられつつ、何とか切り抜けることが出来ました。当初の想像以上に学会を楽しめました。本当にありがとうございました。

ここで、私が今回経験した海外の学生との会話のタネについて書き残したいと思います。キーワードは「麦わらぼうしと折鶴」です。麦わらぼうしは某有名海賊漫画、折鶴は言わずもがな日本が有する文化、折り紙の一つです。この二つどちらかを知っていると、コミュニケーションは大分楽になりそうですよ。

謝辞

このような貴重な機会を与えてくださった中村栄子先生に深く感謝いたします。酒井先生（愛知工大）、本水先生（岡山大）、手嶋先生（愛知工大）には、厚くましても学会会場のみならず、出発以前から帰国直前まで様々な御支援をいただきました。厚く御礼申し上げます。会場にいらっしゃった河寫先生（筑波大）、飯田先生（神奈川工科大）、今任先生（九州大）、佐藤先生（神奈川工科大）、椎木先生（大阪府立大）、善木先生（岡山理科大）、田中先生（徳島大）、長岡先生（大阪府立大）は私たち学生にも優しく声をかけてくださいました。厚く御礼申し上げます。日本からいらした先生方の存在は、未知の国で戸惑うばかりの私にとって心強いものでした。皆様に重ねて深く感謝いたします。また、出発の前日遅くまで私たちの発表練習を熱心に指導してくださった高橋和子女史に感謝いたします。

最後に、私と同じ研究室の滑川君、三好君、そして東京理科大の関根君へ。3人には非常に助けられました。皆、**“Gracias”**！



写真 ホテル前で先生方と学生ら。
後列左から：田中先生、河寫先生ご夫人、酒井先生、本水先生、善木先生
前列左から：筆者、関根、三好、滑川